

人と動物の絆——ずっと一緒にいるために

ペットは私たちの生活に潤いと安らぎをもたらしてくれます。ペットの存在が、家庭内や隣人との会話を増やして人間関係を円滑にしたり、子供たちに自分より弱い者に対するいたわりの心や、命を預かる責任の重さと命の大切さを教えてくれます。また時には、ペットの存在が生きていく力や明日への希望になることもあります。人と動物は強い絆を結ぶことができるのです。

しかし、その絆はただペットを飼えば生じるものではありません。動物との絆は、毎日きちんと世話をし、ペットの命を守り、ペットの気持ちになって考え、一緒に幸せになろうと努力し実行していく過程で結ばれ、少しずつ強くなくなっていきます。

強い絆で結ばれた人とペットは、思いもかけない事態に襲われた時も乗り越えていけるでしょう。どんな時もずっと一緒にいられるために、あなたとペットとの間に強い絆を結びましょう。



強い絆で結ばれた人と動物は…

実例1

行方不明になった犬とマイクロチップのおかげで再会



不注意で犬を迷子にさせてしまった A さんは、保健所や動物保護センターに収容されていないか毎日のように問い合わせをし、貼り紙をするなど必死に探していました。ある日、放れている犬がいるとの通報で自治体の動物保護センターが出動、保護した犬にマイクロチップの反応がありました。日本獣医師会(AIPO事務局)*に登録された情報からすぐに A さんに連絡がとれ、犬は無事に A さんの元に戻ることができました。

*AIPO事務局: 動物 ID 普及推進会議。マイクロチップによる犬、猫などの動物個体識別の普及推進とデータ管理を行っている組織です。

実例2

大震災に遭い何度も訪れた危機を強い絆で乗り越える



東北地方の海沿いでドッグカフェとトリミングサロンを営んでいた B さんは、今まで経験したことのない激しい揺れの後、すぐに避難を開始しました。店舗で預かっていた大型犬1頭と小型犬2頭を先に車に乗せ、飼っていた大型犬4頭と小型犬10頭、家族と店の従業員と、津波の迫る中、2台の車で高台を目指しました。中学生の息子の腕の中には、「大事な物を一つだけ持つように」と言われて迷わず抱きかかえた飼い猫がいました。

津波から逃げ切り、その晩は余震が続く中、預かりの犬と自分の犬猫たちと避難所の車の中で過ごしました。救援物資のペットフードが届くまでは、万が一に備えて車に備蓄していたペットフードでしのぐことができました。その後、犬と猫を連れて避難先を5回も変わることになりました。

家族や従業員、預かっていた動物や飼っていた動物はみんな助かりましたが、海沿いにあった店舗は土台だけを残して流失しました。将来のことを考えるとくじけそうにもなりましたが、家族と犬たちのためにも頑張ろうと自分を奮い立たせ、今は内陸部に新たな店舗を持ち、生活の再建を始めています。